令和３年12月21日（火曜日）

建設通信新聞

新丸山ダム本体が起工

水害防止に重要な役割

整備局

中部地方整備局は18日、岐阜県八百津町の八百津町B&G海洋センター体育館で、新丸山ダム本体建設工事起工式を開いた。関係者ら約50人が式典に出席した。

冒頭あいさつで渡辺猛之国土交通副大臣は「過去、日本は幾度となく大きな災害を経験してきた。この地域も例外ではない。岐阜、愛知、三重の各県に及ぶ水害を減らすため、このダムは重要な役割を果たす」と期待を寄せた。また、足立敏之参院議員が「今回の工事は世界的に見ても珍しく、高い技術力を要する難しい工事となる。関係者一丸となって頑張ってほしい」とエールを送った。

この後、菊池秀之新丸山ダム工事事務所長が工事概要を説明した。会場と建設予定地を中継し、既設ダムの映像に新ダムの完成予想図を写し込んで、位置関係を交えながらわかりやすく解説した。その後、鍬（くわ）入れを行い、くす玉を開披した＝写真。

この事業では、既設ダムの下流47・5㌔の位置に新ダムを建設し、計画高水流量毎秒７１００立方㍍のうち毎秒２５００立方㍍の洪水調整等や発電を行う。場所は、木曽川水系木曽川、右岸が八百津町八百津、左岸が御嵩町小和沢。総事業費は約２０００億円。工期は２０２９年度まで。